

令和7（2025）年度

第4学年

学 習 の 内 容 と 評 価



東京学芸大学附属国際中等教育学校

教科名	国語科	科目名	現代の国語			単位数
学年	4 年		Contemporary Japanese Language / MYP: Language and literature			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

- 実社会に必要な国語に関する知識や、それを活用する技能。
- 聞き手の身になって、よりわかりやすく伝えるために必要な「話す力」。
- 自分の考えを深め、他者とよりよいコミュニケーションを図るために必要な、情報を正確に「聞き取る力」や情報を「整理する力」。
- 自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるために必要な「書く力」。
- 文章だけでなく、さまざまなメディアなどから与えられる情報を「読み取る力」。
- 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度。

MYP 評価規準と評価方法

A：分析	・テキストやテキスト同士の関係性を分析し、テキストを評価できるか ・例や説明を用いて意見や考えの理由を述べてきているか * 上記の観点を、授業中の学習・定期試験・課題を用いて評価します。評価材料や方法は以下 B～D の観点にも共通します。	定期試験 レポート
B：構成	・意見や考えを論理的方法を用いて整理したり構造化したりできるか ・様式や体裁を使用して、創作・表現することができるか	レポート スピーチ
C：創作	・創作するために適切に情報を収集し、新しいものの見方やアイデアを探究できるか ・多様な観点から受け手に与える影響を考えて表現のスタイルを選択できるか	レポート 課題
D：言語の使用	・適切な語彙や表現の形式を選択して使用できるか ・言語に関する知識（文法を含む）を獲得し、活用できるか	小テスト スピーチ 定期試験

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	・作品やテキストを深く読解・理解するための総合的な知識を獲得すること。 ・表現の基盤となるスキルを獲得すること。 * 上記の獲得や理解を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。	小テスト 定期試験
思考・判断・表現	・ジャンルや作品の種類を踏まえ、文章の構成や論理展開、表現の特色について評価し、作品の価値について考察すること。 ・作品や文章について内容を分析・解釈し、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、それらを自分の言葉で表現すること。 * 上記についての力を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。	レポート スピーチ 課題
主体的に学習に取り組む態度	・言葉や言語文化がもつ価値への認識を自ら深めようとしている。	学習への取り組み、課題、振り返りの記述等

	・作品に探究的にアプローチしようとしている。 * 上記について、姿勢・態度を「知識・技能」・「思考・判断・表現」の観点も踏まえた上で、学習への取り組み・課題・振り返りの記述を用いて評価します。	
使用教材		
教科書： 『精選 現代の国語』（明治書院）		
副教材： 必要に応じて授業者が配布		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
4～5月	単元①	
6～7月	単元②	
9～10月	単元③	
11～12月	単元④	
1～3月	単元⑤	
備考		

教科名	国語科	科目名	言語文化			単位数
学年	4 年		Language Culture / MYP: Language and literature			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能
- 我が国の言語文化に対する理解を深める力
- 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力
- 他者との関わりの中で伝え合う力
- 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度

MYP 評価規準と評価方法

A：分析	・テキストやテキスト同士の関係性を分析し、テキストを評価できるか ・例や説明を用いて意見や考えの理由を述べてきているか * 上記の観点を、授業中の学習・定期試験・課題を用いて評価します。評価材料や方法は以下 B～D の観点にも共通します。	レポート・課題・期末テストなど
B：構成	・意見や考えを論理的方法を用いて整理したり構造化したりできるか ・様式や体裁を使用して、創作・表現することができるか	レポート・課題など
C：創作	・創作するために適切に情報を収集し、新しいものの見方やアイデアを探究できるか ・多様な観点から受け手に与える影響を考えて表現のスタイルを選択できるか	レポート・課題など
D：言語の使用	・適切な語彙や表現の形式を選択して使用できるか ・言語に関する知識（文法を含む）を獲得し、活用できるか	小テスト・レポート・課題・期末テストなど

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	・作品やテキストを深く読解・理解するための総合的な知識を獲得すること。 ・表現の基盤となるスキルを獲得すること。 * 上記の獲得や理解を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。	小テスト・レポート・課題・期末テストなど
思考・判断・表現	・ジャンルや作品の種類を踏まえ、文章の構成や論理展開、表現の特色について評価し、作品の価値について考察すること。 ・作品や文章について内容を分析・解釈し、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、それらを自分の言葉で表現すること。 * 上記についての力を授業中の活動・定期試験・課題等を用いて評価します。	レポート・課題・期末テストなど
主体的に学習に取り組む態度	・言葉や言語文化がもつ価値への認識を自ら深めようとしている。 ・作品に探究的にアプローチしようとしている。 * 上記について、姿勢・態度を「知識・技能」・「思考・	課題やテストへの取り組み・学習への取り組みなど

	判断・表現」の観点も踏まえた上で、学習への取り組み・課題・振り返りの記述を用いて評価します。	
使用教材		
教科書：	精選言語文化（明治書院） 詳説古典文法改訂版（筑摩書房）・詳説古典文法改訂版準拠学習ノート（筑摩書房）・四訂版わかる・読める・	
副教材：	解ける Key & Point 古文単語 330（いいずな書店）・体系漢文三訂版（数研出版）・新訂国語図説六訂版（京都書房）	
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
4～7月	「詩歌」「説話」「漢文の構造」 詩歌の背景にある価値観から、人間の創造性を理解する。 説話における視点や意図・語り方の特徴・テーマ性などを考える。 漢文の構造や特徴を理解する。	
9～12月	「小説」「歌物語」「随筆」「漢詩の多様性」 テキストのスタイルや細部に着目し、小説を読み解く。 和歌を中心とする歌物語の構成や特徴を捉える。 随筆を通して個人的表現と文化的表現のあり方を考察する。 型があることの意義や漢詩の多様性を理解する。	
1～3月	「小説」「日記文学」「思想」 小説の表現と社会的背景の関連性を考える。 日記と日記文学の違いを分析する。 諸子百家の思想から人々の考え方や生き方を捉える。	
備考		

教科名	地理歴史科	科目名	地理総合			単位数
学年	4 年		Geography / MYP: Individual and Societies			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

4 学年には 2 つの意味があります。一つは MYP の最終学年としての意味、もう一つは後期課程最初の学年としての意味です。まず、MYP 最終学年として 1～3 学年で学習した「社会」の内容と関連させながら、現代的な課題に活かせるような授業展開を行います。後期課程の始まりの学年として、内容を地理学における「系統地理」分野を中心に学習します。以下の 3 つが地理総合の目標です。

- 世界の様々な地理的事象や地域の特徴を理解するために必要な地理的見方・考え方を身につける。
- 世界と私たちとの間の様々な結びつきを見出す能力を身につける。
- 様々な視点から物事を考える能力を身につける。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	定期試験や授業中の学習活動、課題等から、地理的知識に関する理解度および活用の程度を評価します。	
B：パターンの探究	課題等から、明確なテーマ設定、論点の提示、異なる立場や複数のソースから情報収集がどの程度できたかを評価します。	
C：コミュニケーション	課題等から、学習内容や調査内容を創意工夫して再構成し、論点を整理してわかりやすく表現できたかどうかを評価します。	
D：実生活への数学の応用	定期試験や授業中の学習活動、課題等から、地理的事象を分析し、多角的・多面的に整理した上で、適切に解釈したり評価したりできたかを評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	MYP の規準 A および規準 B に対応します。社会科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	
思考・判断・表現	MYP の規準 C および規準 D に対応します。社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	社会科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	

使用教材

教科書：

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

備考

地理総合の授業で用いた「地図帳」や「資料集」は 6 年次に開講される「地理探究」でも使用します。地理探究を履修す

る可能性がある 生徒は各自で大切に保管してください。

2024/5/9 更新

教科名	公民科	科目名	公共／公共(IM)			単位数
学年	4 年		Public / MYP: Individual and Societies			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

「私たちは、いかにしてよりよい社会を作っていくのか」。これを本質的な問いとして設定し、「自己と向き合い、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公民的資質)を養うことが、本校公民科の目標です。

4 学年には2つの意味があります。一つは MYP の最終学年としての意味。もう一つは後期課程最初の学年としての意味です。MYP 最終学年としてはこれまで学習してきた社会科のまとめとして3 学年で学習した「社会 (公民分野)」の内容と関連させながら地理的・歴史的な視点を現代的な課題に活かせるような授業展開を行っていきます。後期課程の始まりの学年としては今後の地歴・公民科の学習に必要な基礎基本となる学習に対する論理的・批判的思考の訓練となるような授業展開を行っていきます。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	期末テスト、授業中の学習活動・まとめ、課題等から、公民的知識に関する理解度および活用の程度を評価します。	定期考査
B：調査	課題等から、明確なテーマ設定、論点の提示、異なる立場や複数のソースから情報収集がどの程度できたかを評価します。	パフォーマンス課題
C：コミュニケーション	授業中の調査内容の発表、質疑応答等の様子から、学習内容や調査内容を創意工夫して再構成し、論点を整理してわかりやすく表現できたかどうかを評価します。	パフォーマンス課題
D：批判的思考	期末テスト、授業中の学習活動・まとめ、課題等から、資料や社会的事象を分析し、異なる見解を整理した上で、どの程度適切に解釈したり評価したりできたかを評価します。	定期考査・パフォーマンス課題

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点 (MEXT 評価規準) と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	MYP の規準 A および規準 B に対応します。社会科・地理歴史科・公民科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期考査・パフォーマンス課題
思考・判断・表現	MYP の規準 C および規準 D に対応します。社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	定期考査・パフォーマンス課題
主体的に学習に取り組む態度	社会科・地理歴史科・公民科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	振り返りシート

使用教材

教科書： 公共 (東京法令出版)

副教材： ズームアップ公共資料 (実教出版)

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	○「公共的な空間における基本原理」 ・民主社会の基本原理 ・日本国憲法と基本的人権など
2 学期	○「政治に参加する私たち」 ・日本の政治機構 ・政治参加と民主政治の課題など

3 学期

- 「経済活動を行う私たち」
 - ・経済のしくみと市場機構 ・日本経済の発展と変化など
- 「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」

備考

2025/4/7 更新

教科名	数学科	科目名	数学Ⅰ			単位数
学年	4 年		Mathematics I / MYP: Mathematics			3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

本科目では上記に加え、特に現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	数学の概念とスキル（技能）に関する理解について評価します。	定期試験、授業中の活動
B：パターンの探究	様々な場面においてパターンを見出す力や、それを図や式等で表すことができる力、そのパターンの根拠やそれを用いて数学的な結論を導いたりする力を評価します。	定期試験、レポート課題、授業中の活動
C：コミュニケーション	場面や文脈に応じて、適切な数学の記号と言語を選択し、それらを用いて事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を評価します。	定期試験、レポート課題、振り返り、授業中の活動
D：実生活への数学の応用	数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに、社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を評価します。	定期試験、レポート課題、振り返り、授業中の課題

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかとも評価します。	定期試験、レポート課題
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	定期試験、レポート課題
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	課題の振り返り、授業の振り返り

使用教材

教科書： 『NEXT 数学Ⅰ』（数研出版）、『NEXT 数学Ⅱ』（数研出版）

副教材： 『TGUISS 数学4』（正進社）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4～9月	① 方程式と不等式 方程式と不等式についての理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを利用できるようにします。また、方程式の解が存在するように数を拡張するとともに、数の概念についての理解を深められるようにします。 (主な学習内容) 2次関数と2次方程式・2次不等式、複素数、等式の証明、不等式の証明
9～12月	② 指数関数、対数関数 これまでの性質を保つように指数を拡張するとともに、身近な事象を指数関数、対数関数を用いて考察、処理できるようにします。 (主な学習内容) 累乗根、指数関数、対数関数

1～3月	③ 統計基礎 集団としての意見や傾向を知るために行う全数調査や標本調査の利点と欠点、標本調査において信頼を得る方法、および、データの散らばりや相関を数値化する方法を理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにします。 (主な学習内容) 全数調査と標本調査、分布、分散と標準偏差、相関係数、仮説検定の考え
備考	
本科目は習熟度別クラス（2クラス2展開）で授業を行います。クラス分けの方法等については、年度当初のオリエンテーションで詳しくお話しします。	

2025/4/3 更新

教科名	数学科	科目名	数学 A / 数学 A (IM)			単位数
学年	4 年		Mathematics A / MYP: Mathematics			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

本科目では前述に加え、特に現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	数学の概念とスキル（技能）に関する理解について評価します。	定期試験、授業中の活動
B：パターンの探究	様々な場面においてパターンを見出す力や、それを図や式等で表すことができる力、そのパターンの根拠やそれを用いて数学的な結論を導いたりする力を評価します。	定期試験、レポート課題、授業中の活動
C：コミュニケーション	場面や文脈に応じて、適切な数学の記号と言語を選択し、それらを用いて事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を評価します。	定期試験、レポート課題、振り返り、授業中の活動
D：実生活への数学の応用	数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに、社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を評価します。	定期試験、レポート課題、振り返り、授業中の課題

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

基本的に、MYP の評価物を MEXT 評価規準でも評価します。MEXT 評価規準のみで評価する課題等はありません。

知識・技能	数量や図形などについての基本的な概念や原理・法則等を理解しているかどうかを評価します。また、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかどうかとも評価します。	定期試験、レポート課題
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を評価します。	定期試験、レポート課題
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている態度について評価します。	課題の振り返り、授業の振り返り

使用教材

教科書： 『数学 A Advanced』（東京書籍）、『数学 B Advanced』（東京書籍）

副教材： 『TGUISS 数学 4』（正進社）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

4～7 月	① 確率 事柄の起こりやすさを数値化する確率の考えについて学びます。数学的活動を通して確率の基本的な法則を導き、それを用いて様々な事象の確率を求められるようにするとともに、確率や期待値を用いた判断ができるようにします。 (主な学習内容) 確率とその基本的な性質、期待値、独立試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率、確率の乗法定理
9～12 月	② 数列 具体的な事象における逐次的な変化を、式を用いて表し、数学的に考察し処理できるようにします。 (主な学習内容) 漸化式、数列の一般項と和、数学的帰納法

1～3月	③ 初等幾何 平面図形および空間図形について，いろいろな性質を見いだしたり証明したりできるようにします。 (主な学習内容) 三角形の性質，作図，空間図形
備考	

2024/5/9 更新

教科名	理科	科目名	SS 物理基礎			単位数	
学年	4 年		Basic Physics / MYP: Sciences			2	
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目	○

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	i. 科学的知識について説明する。 ii. 科学的知識と理解を応用し、見慣れた状況下と見慣れない状況下で起きた問題を解決する。 iii. 情報を分析・評価し、科学的に裏付けられた判断を下す。	・定期考査
B：探究とデザイン	i. 科学的研究によって検証する問題または質問について説明する。 ii. 正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を系統的に組み立て、説明する。 iii. 変数の操作方法を説明する。十分かつ適切なデータを収集する方法を説明する。 iv. 適切な材料と設備を選択するための論理的で完全かつ安全な方法をデザインする。	・パフォーマンス課題 ・レポート課題
C：手法と評価	i. 数値形式および視覚的形式（またはそのいずれか）でデータを正しく収集し、整理し、変換し、発表する。 ii. データを正確に解釈し、正しい科学的推論を用いて結果を説明する。 iii. 科学的研究の結果に基づいて仮説の妥当性を評価する。 iv. 科学的研究の結果に基づいて方法の妥当性を評価する。 v. 科学的研究に役立つ方法の改善または拡張について説明する。	・パフォーマンス課題 ・レポート課題
D：科学による影響の振り返り	i. 具体的な問題または課題への対処に科学がどのように応用され、用いられるかを説明する。 ii. 一つの要因と関係づけながら、具体的な問題または課題の解決に科学とその応用を用いることが与える影響を論じ、評価する。 iii. 科学用語を一貫して応用し、理解したことを明確にかつ正確に伝える。 iv. 情報源を完璧に明記する。	・単元ごとの振り返り ・レポート課題

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	i. 科学的知識について十分に理解を示す。 ii. 実験器具、測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii. 定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv. 情報源を完璧に明記する。 v. 科学的知識と理解を応用し、実社会における問題や課	・定期考査
-------	---	-------

	題について多面的に述べる。		
思考・判断・表現	i .自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 ii .正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii .変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv .データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v .探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi .実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。	・パフォーマンス課題 ・レポート課題 ・定期考査	
主体的に学習に取り組む態度	i .実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii .実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。 以下の要素の形成的評価や行動観察において、 試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況 ・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献	・単元ごとの振り返り ・レポート課題	
使用教材			
教科書： 物理基礎（東京書籍）			
副教材：			
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。			
1 学期	力と運動に関する内容を学習します。		
2 学期	エネルギーに関する内容を学習します。		
3 学期	波に関する内容を学習します。		
備考			

教科名	理科	科目名	SS 生物基礎			単位数
学年	4 年		Basic Biology / MYP: Sciences			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	i. 科学的知識について説明する。 ii. 科学的知識と理解を応用し、見慣れた状況下と見慣れない状況下で起きた問題を解決する。 iii. 情報を分析・評価し、科学的に裏付けられた判断を下す。	・定期考査
B：探究とデザイン	i. 科学的研究によって検証する問題または質問について説明する。 ii. 正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を系統的に組み立て、説明する。 iii. 変数の操作方法を説明する。十分かつ適切なデータを収集する方法を説明する。 iv. 適切な材料と設備を選択するための論理的で完全かつ安全な方法をデザインする。	・レポート課題 ・パフォーマンス課題
C：手法と評価	i. 数値形式および視覚的形式（またはそのいずれか）でデータを正しく収集し、整理し、変換し、発表する。 ii. データを正確に解釈し、正しい科学的推論を用いて結果を説明する。 iii. 科学的研究の結果に基づいて仮説の妥当性を評価する。 iv. 科学的研究の結果に基づいて方法の妥当性を評価する。 v. 科学的研究に役立つ方法の改善または拡張について説明する。	・レポート課題 ・パフォーマンス課題
D：科学による影響の振り返り	i. 具体的な問題または課題への対処に科学がどのように応用され、用いられるかを説明する。 ii. 一つの要因と関係づけながら、具体的な問題または課題の解決に科学とその応用を用いることが与える影響を論じ、評価する。 iii. 科学用語を一貫して応用し、理解したことを明確にかつ正確に伝える。 iv. 情報源を完璧に明記する。	・レポート課題 ・パフォーマンス課題 ・振り返り

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	i. 科学的知識について十分に理解を示す。 ii. 実験器具、測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii. 定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv. 情報源を完璧に明記する。 v. 科学的知識と理解を応用し、実社会における問題や課	定期考査
-------	---	------

	題について多面的に述べる。	
思考・判断・表現	i .自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 ii .正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii .変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv .データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v .探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi .実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。	・レポート課題 ・パフォーマンス課題 ・振り返り
主体的に学習に取り組む態度	i .実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii .実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。 以下の要素の形成的評価や行動観察において、 試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況 ・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献	・振り返り
使用教材		
教科書： 生物基礎（数研出版）		
副教材： なし		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
1 学期	主に細胞とそのはたらきに関する内容を学習します。	
2 学期	遺伝子とそのはたらき、生物の体内環境と維持、生物の多様性と生態系に関する内容を学習します。	
3 学期	生命科学の技術革新に関する内容を学習します。	
備考		

教科名	理科	科目名	科学と人間生活(IM)			単位数
学年	4 年		Science and Our Daily Life / MYP: Sciences			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		○

本科目の目標／伸ばしたい力

多面的・多角的な要素を含む現代的な諸課題のありようを認識し、それらを科学的に捉えるものの見方を育成する。また、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。一連の学習活動を通して、科学とは何か、私たちは科学をどう扱っていくのかなど、科学そのものについての豊かな認識を育成する。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	i. 科学的知識について説明する。 ii. 科学的知識と理解を応用し、見慣れた状況下と見慣れない状況下で起きた問題を解決する。 iii. 情報を分析・評価し、科学的に裏付けられた判断を下す。	
B：探究とデザイン	i. 科学的研究によって検証する問題または質問について説明する。 ii. 正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を系統的に組み立て、説明する。 iii. 変数の操作方法を説明する。十分かつ適切なデータを収集する方法を説明する。 iv. 適切な材料と設備を選択するための論理的で完全かつ安全な方法をデザインする。	
C：手法と評価	i. 数値形式および視覚的形式（またはそのいずれか）でデータを正しく収集し、整理し、変換し、発表する。 ii. データを正確に解釈し、正しい科学的推論を用いて結果を説明する。 iii. 科学的研究の結果に基づいて仮説の妥当性を評価する。 iv. 科学的研究の結果に基づいて方法の妥当性を評価する。 v. 科学的研究に役立つ方法の改善または拡張について説明する。	
D：科学による影響の振り返り	i. 具体的な問題または課題への対処に科学がどのように応用され、用いられるかを説明する。 ii. 一つの要因と関係づけながら、具体的な問題または課題の解決に科学とその応用を用いることが与える影響を論じ、評価する。 iii. 科学用語を一貫して応用し、理解したことを明確にかつ正確に伝える。 iv. 情報源を完璧に明記する。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	i. 科学的知識について十分に理解を示す。 ii. 実験器具、測定機器等を正確に操作し、実験・観察を行う。 iii. 定量的および定性的な生データを十分に記録する。 iv. 情報源を完璧に明記する。 v. 科学的知識と理解を応用し、実社会における問題や課	
-------	---	--

	題について多面的に述べる。	
思考・判断・表現	i .自然の事物・現象とそこから見いだした問題を述べる。 ii .正しい科学的推論を用いて、検証可能な仮説を組み立て、説明する。 iii .変数とその操作方法を設定し、十分かつ適切なデータを収集する方法を説明し、適切な材料と設備を選択して、論理的で安全な方法をデザインする。 iv .データを、わかりやすく整理し、正確に解釈する。 v .探究課題に全面的に対応し、提示されたデータによって十分に裏づけられた結論が詳しく述べられている。 vi .実社会の問題や課題に科学が与える影響を多面的に捉え、自分の意見を詳しく述べる。	
主体的に学習に取り組む態度	i .実験・観察、実社会の問題や課題に関する学び等に試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ii .実験・観察方法、実社会の問題や課題に関する学び等を振り返り、改善するための提案について詳しく述べる。 以下の要素の形成的評価や行動観察において、 試行錯誤しながら、粘り強く取り組む。 ・探究課題に取り組んだ時の実験ノートやワークシートへの記述 ・課題の提出状況・取り組み状況 ・振り返りの記入 ・小テスト ・グループワークへの貢献	
使用教材		
教科書： 科学と人間生活（東京書籍）		
副教材： 担当教員が準備する資料等		
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。		
1 学期～2 学期	This course deals with the different sciences found in human life. In the first half of the course, traditional science topics (such as Plant Sciences and Animal Sciences) would be the focus.	
2 学期～3 学期	All throughout these topics, students will be trained with Imaging Analytics to obtain and quantify data.	
備考		

教科名	保健体育科	科目名	体育	単位数
学年	4 年		Physical Education / MYP: Physical and Health Education	2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目
			○	選択必履修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

運動の原則やルール、高度な戦術を考えることができる。

一連の動きや技の構成などが洗練され、美的でスムーズに展開するとともに、表現豊かに運動することができる。

より複雑な運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ったり、他者にも示したりすることができる。

個人やグループで、優れた作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりすることができる。

他者との連携を図るために、協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに、効果的なコミュニケーション力を発揮しようとすることができる。

体育ノートの提出等、決められた約束を守ったり、他者と協力して懸命に取り組んだりすることができる。

各運動種目における専門的な知識を深めながら技能を高めることができる。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	定期考査、授業中の学習活動・まとめ等から、健康や運動・体育理論の知識に関する理解度および活用の程度を評価します。	学期末テスト、体育ノート
B：活動の計画	体育ノートの記述や課題等から、明確な目標設定、自己分析提示、段階的な技術習得や練習の工夫、作品づくりの計画がどの程度できたかを評価します。	体育ノート、課題
C：応用と実践	授業中の活動・技術練習・実践の様子から、自己の動きの分析・練習内容の創意工夫による技術向上や表現ができたかどうかを評価します。	運動のパフォーマンス
D：活動の振り返りと改善	授業中の学習活動・体育ノート・課題等から、動きを分析し、異なる見解を整理した上で、どの程度適切に解釈したり評価したりできたかを評価します。	体育ノート及び授業内における活動状況

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	体育・体育理論に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。	学期末テスト、体育ノート、運動のパフォーマンス
思考・判断・表現	実践的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・課題等から評価します。	学期末テスト、体育ノート
主体的に学習に取り組む態度	体育・体育理論を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、授業中の学習活動や振り返りなどの記述から総合的に評価します。	体育ノート及び授業内における活動状況

使用教材

教科書： 高等学校保健体育（第一学習社）

副教材： Active Sports（大修館書店）

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	体づくり運動・バスケットボール・ハンドボール・水泳
2 学期	器械運動（マット運動・跳び箱運動）・バレーボール・体育理論
3 学期	武道・ダンス（選択）

備考

見学する場合は、必ず「見学届」を提出してください。

教科名	保健体育科	科目名	保健				単位数
学年	4 年		Health / MYP: Physical and Health Education				1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目	○	選択必履修科目	
本科目の目標／伸ばしたい力							
急激に変化する社会において刻々と変化する健康問題について、自分自身の健康と関連させながら、健康を維持増進するために必要な知識を身につけ、その概念を理解したうえで実生活に結びつける能力。							
安全な社会生活実現に向けて個人の取組及び地域の連携の必要性について理解し、心身の健康を保持増進するために必要な知識を身につけ、それらを行うための責任をしっかりと自覚して果たす能力。							
他者との連携を図り、協力や責任力を持って行う力。コミュニケーション力を発揮しようとする力。レポートなどの提出物等決められた約束を守る力。							
MYP 評価規準と評価方法							
A：知識と理解		保健に関する知識の獲得と、理解度および活用の程度を授業中の学習活動・定期試験等から評価します。				学期末テスト	
B：活動の計画		保健的な見方・考え方を働かせ、課題発見・課題解決できているか、および計画的な活動ができているかを授業中の学習活動・プレゼンテーション・課題等から評価します。				プレゼンテーション・レポート等の課題	
D：活動の振り返りと改善		保健に関して社会課題などにも向き合いながら「知識と理解」、「活動の計画」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述や学習活動の取り組み方から総合的に評価します。				授業内における活動状況	
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法							
知識・技能		保健に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験等から評価します。				学期末テスト	
思考・判断・表現		保健的な見方・考え方を働かせ、課題を発見したり解決したりできているかを授業中の学習活動・プレゼンテーション・課題等から評価します。				プレゼンテーション、レポート等の課題	
主体的に学習に取り組む態度		保健に関して社会課題などにも向き合いながら「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述や学習活動の取り組み方から総合的に評価します。				授業内における活動状況	
使用教材							
教科書： 高等学校保健体育（第一学習社）							
副教材： アクティブスポーツ総合版（大修館書店）							
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。							
第1章		現代社会と健康					
第2章		安全な社会生活					
備考							

教科名	芸術科	科目名	音楽Ⅰ			単位数
学年	4 年		Music II / MYP: Arts			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目
						○

本科目の目標／伸ばしたい力

- 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- 多様な音楽に対する理解を深め、多角的な視点視野を持って、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	学習する題材そのものについて、あるいは関連する情報や、単元の探究テーマと関連づく事柄について幅広く調査し、分析や批評する力を評価します。	
B：活動の計画	作品や演奏、パフォーマンスに向けたアイデアを創出し、それらを楽譜やDTM、図表で明示し、そのアイデアが妥当であることを説明する力を評価します。また、単元の掲げる探究テーマと関連づけて作品の芸術的意図を説明する力も評価します。	
C：応用と実践	芸術的意図の伝わる成果物や、音楽の演奏、パフォーマンスの実演を評価します。	
D：活動の振り返りと改善	自他の芸術作品や演奏発表、パフォーマンスについて評価したり、批評したりする力を評価します。自ら評価規準を設定できる力も評価の対象となります。また、	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	調査したことを含め、学習した題材の知識や、音楽を形づくる要素そのものへの理解について評価します。また、奏法やパフォーマンスの技法についても評価します。	
思考・判断・表現	音楽を形づくる要素を用いた表現の工夫や、単元の探究テーマと関連する考察や問いの答えを評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	作品や演奏発表に向けたプロセスの記述や自己評価を含む振り返りを評価します。これには、IB の ATL スキルの活用も含まれます。	

使用教材

教科書： 教育芸術社 MOUSA 1

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	和太鼓演習Ⅲ 八丈太鼓と即興演奏（伝統音楽・和楽器体験）【器楽】 ヴォーカルアンサンブルⅠ 【歌唱】 基礎音楽理論演習
2 学期	クラシック音楽鑑賞 原曲と編曲作品の比較鑑賞【鑑賞】 楽曲探究・即興演奏【創作】
3 学期	ヴォーカルアンサンブルⅡ 6 声部混声合唱【歌唱】

備考

MEXT 評価規準の「主体的に学習に取り組む態度」は、主に単元の中のプロセスや振り返りで評価します。また、他の規準においても 1 つの単元の中で IB の総括的評価課題とは別途設定されることがあります。

教科名	芸術科	科目名	美術Ⅰ			単位数
学年	4 年		Art and DesignⅠ / MYP: Arts			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		○

本科目の目標／伸ばしたい力

美術科では6年間で3段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。(4年次は選択必修)

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

4年生は様々な表現に触れながら、豊かな感性や創造する力を伸ばす時期と捉え、授業を展開していきます。

MYP 評価規準と評価方法

A：調査	・様々な文脈における具体的な芸術作品 ・科目特有の用語を使って、調査、プロセス、アイデアを効果的に伝える方法	
B：発展	・さまざまな芸術創作形式、手法、実践の実験に取り組む ・アイデアを実践的に探究することでアイデアを発展させる	
C：創作・実演	・芸術作品の創作に特定のスキルを応用する ・芸術を創作するためにさまざまな方法、技法、実践法を用いる	
D：評価	・自分の創作が、自分の芸術的意図をどの程度達成しているかを考える ・自他の創作が受け手に与える影響を考える ・芸術技法の習得と発達を振り返る ・ATLスキルの発達を振り返る	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表す	
思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考える ・主題を生成し創造的に発想し構想を練る ・価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める	
主体的に学習に取り組む態度	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情 ・感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度	

使用教材

教科書： 光村図書 美術Ⅰ

副教材： なし

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	立体・彫刻・デザイン 主題をもとに素材などを工夫して立体作品を作ります (主な学習内容・活動内容) 彫刻、プロダクトデザイン、鑑賞
2 学期	平面・絵画 主題をもとに表現様式などを工夫して絵画作品を作ります

(主な学習内容・活動内容) 油彩画、鑑賞	
3 学期	平面・デザイン 主題をもとに構成などを工夫して表現し、発信することを学びます。 (主な学習内容・活動内容) グラフィックデザイン、鑑賞
備考	
油彩画セットが必要になります。DP 希望者は履修することが望ましいです。	

2024/5/9 更新

教科名	芸術科	科目名	書道Ⅰ			単位数
学年	4 年		Calligraphy I / MYP: Arts			2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		選択必履修科目
						○

本科目の目標／伸ばしたい力

4年生の芸術書道は、書道における基礎的な知識の学習を行うとともに、古典の臨書学習を通し、書道における伝統的な表現の方法を学び、豊かな芸術表現活動ができるようにします。書の様々な表現に触れながら、書道史や芸術、文化にも視野を広げ、豊かな感性を育むとともに芸術への関心を深めます。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	・様々な文脈における具体的な芸術作品 ・科目特有の用語を使って、調査、プロセス、アイデアを効果的に伝える方法	
B：活動の計画	・さまざまな芸術創作形式、手法、実践の実験に取り組む ・アイデアを実践的に探究することでアイデアを発展させる	
C：応用と実践	・芸術作品の創作に特定のスキルを応用する ・芸術を創作するためにさまざまな方法、技法、実践法を用いる	
D：活動の振り返りと改善	・自分の創作が、自分の芸術的意図をどの程度達成しているかを考える ・自他の創作が受け手に与える影響を考える ・芸術技法の習得と発達を振り返る ・ATL スキルの発達を振り返る	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表す	
思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考える ・主題を生成し創造的に発想し構想を練る ・価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める	
主体的に学習に取り組む態度	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情 ・感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度	

使用教材

教科書： 光村図書 書Ⅰ

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

1 学期	書写と書道の共通点と相違点 / 「書写」の復習・筆使いの基本 書体の成立と楷書の書風比較 / 楷書古典（中国・唐代）の臨書 楷書の創作作品制作
2 学期	行書古典（蘭亭序）の臨書学習 / 行草の創作作品制作 仮名の用筆、仮名の字源・変体仮名・連綿 / 仮名の臨書学習 散らし書きの創作作品制作
3 学期	書く言葉の内容と表現の関係 / 創作作品制作

備考

教科名	外国語科	科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数
学年	4 年		English Communication I / MYP: Language Acquisition	3
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修科目
			○	選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力			
4 年次は、前期課程で身につけた知識の更なる伸長をはかり、応用する力を伸ばします。既習の語彙・文法を活用しながら、話す・聞く・読む・書く力を総合的に訓練します。聞く・読む活動から、情報を得て、まとめ、分析して話す・書く力を育成します。また、英語圏文化の理解を深め、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。			
MYP 評価基準と評価方法			
A : Listening	動画視聴などを通じて、外国語を聞き取る力を評価します。		
B : Reading	物語や評論の講読を通じて、外国語を読み取る力を評価します。		
C : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。		
D : Writing	エッセイ執筆などを通じて、外国語を書く力を評価します。		
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価基準）と評価方法			
知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4 技能の定着を評価します。		
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。		
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。		
使用教材			
教科書： CROWN English Communication I（三省堂）			
副教材： 各授業担当者が必要に応じて使用します。			
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。			
教科書の内容：			
課	タイトル	主な言語材料	題材／場面
L1	The Blue White Shirt	to 不定詞、動名詞	言語・日本文化／スピーチ・家庭生活・学校生活
L2	Does It Spark Joy?	現在完了、現在完了進行形、助動詞	生き方・生活／エッセイ・家庭生活
L3	Hatching the Egg of Hope	関係代名詞、分詞の形容詞的用法、受動態	芸術・国際交流／エッセイ・地域での活動
L4	Digging into Mystery	過去完了・過去完了進行形、関係代名詞 what、S+V+O（O＝疑問詞節 / if 節）	歴史・日本文化／プレゼンテーション・学校生活
L5	Roots & Shoots	分詞構文、it ～ that ...（形式主語）、同格	環境・共生／インタビュー
L6	You and Your Smartphone — Who's in Charge?	関係副詞、S+V+O+C（C＝原形不定詞・分詞）	科学技術／雑誌記事・家庭生活・学校生活
L7	Living in Alaska	seem to ～；it seems that ～、S+is+C（C＝that 節）、S+V+C（C＝分詞）	自然・異文化／講演・地域での活動
L8	Not So Long Ago	仮定法過去、S+V+O1+O2（O2＝疑問詞節）、付帯状況を表す with ～	平和・歴史／レクチャー・学校生活
L9	Our Lost Friend	受動態の完了形、助動詞+be+過去分詞、関係代名詞の非制限用法	文化遺産／論説文
L10	Good Ol' Charlie Brown	仮定法過去完了、used to ～；would ～など、形式目的語 it	生き方・芸術／エッセイ
・Core/Basic：教科書の学習内容を踏まえて、英語を使って自分の意見を根拠とともに発信する学習を中心に行います。さらに語彙や表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。学習のテーマとしては以下を想定しています。			
例）偉人、世界の歴史文化、環境、さまざまな言語、平和問題、人生哲学			

・Advanced：発展的な活動としてインターネット、文学など多様な題材を用いて、英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。テーマとしては以下の内容を想定しています。

例) 時事、政治、文化、環境、人権、社会、生命倫理、戦争と平和、エネルギー、経済、メディア

備考

この科目は必修です。ただし、習熟度に応じてクラスを複数設定しますので、オリエンテーション等で指示に従ってください。

2025/3/25 更新

教科名	外国語科	科目名	論理・表現Ⅰ	単位数
学年	4 年		Logic and Expression I / MYP: Language Acquisition	1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	必修科目	選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

4 年次では、英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、プレゼンテーション能力やディスカッションする力を身につけていきます。5 年次に行われる海外ワークキャンプに必要な多様なスキルを身につけます。

MYP 評価規準と評価方法

C : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。	
D : Writing	エッセイ執筆などを通じて、外国語を書く力を評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4 技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書： CROWN Logic and Expression I （三省堂）

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

教科書の内容：

課	タイトル	主な言語材料	題材／場面
L1	OriHime	時制	人生・生き方／スピーチ・学校生活
L2	Breakfast Makes Perfect	助動詞	食生活と健康／プレゼンテーション・家庭生活
L3	Cool Japan	受動態	日本文化／ライティング・家庭生活
L4	Save Our Planet	不定詞	環境問題／ディスカッション・学校生活・地域での活動
L5	Volunteer Work for What?	動名詞	ボランティア／ディベート・学校生活・地域での活動
L6	Another Life I Might Have Had	分詞	文学・読書／スピーチ・本を読むこと
L7	What Is Our Greatest Invention?	比較	サイエンス・発明／プレゼンテーション
L8	Discover Japan	関係詞	都市・観光／ライティング・
L9	Urban Life or Rural Life	仮定法	交通・地域／ディスカッション
L10	Music Without a Pianist	接続詞	芸術・テクノロジー／ディベート
P1	My Hobby: Boulderling		スピーチ
P2	A Country I'd Like to Visit		プレゼンテーション
P3	Are Zoos Necessary?		ディスカッション
P4	All Elementary School Students Should Have a Mobile Phone		ディベート
P5	E-Book Readers		ライティング

英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。

Core English Expressions

In this class we will learn about various topics in English and talk/write about them.

Basic English Expressions

In this class we will learn about various cultural and current topics and discussing them.

Discussing cultural and current issues (Advanced)

Learning about various cultural and current topics and discussing them.

備考

4 年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。（4・5 年の分割履修となります。）

2025/3/25 更新

教科名	情報科	科目名	情報Ⅰ				単位数
学年	4 年		Information StudyⅠ / MYP: Design				2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必修修科目	○	選択必修修科目	
本科目の目標／伸ばしたい力							
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
(1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。							
(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。							
(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。							
MYP 評価規準と評価方法							
A：探究と分析		効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技術を習得する。					
B：アイデアの発展		様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。					
C：課題解決		様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。					
D：評価		問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用した結果を考察し、よりよい結果を導く					
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法							
知識・技能		効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技術を習得する。					
思考・判断・表現		様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。					
主体的に学習に取り組む態度		情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を身に付ける。					
使用教材							
教科書： 情報Ⅰ							
副教材： なし							
学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。							
1 学期		権利と法規・アナログとデジタル					
2 学期		コンピュータの仕組み・ネットワークの仕組み・モデル化とシミュレーション					
3 学期		アルゴリズムとプログラミング					
備考							

教科名	国際教養	科目名	国際 1 ～ 6	単位数
学年	1 ～ 6 年		Global Liberal Studies; The Period for Integrated Studies	1

本科目の目標／伸ばしたい力		
〈1 年〉 様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対しての耐性を養う。 〈2 年〉 様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。 〈3 年〉 様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。 〈4 年〉 自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。 〈5 年〉 異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。 〈6 年〉 社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。		
文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法		
知識・技能	各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。	
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		
国際教養群に含まれる各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。		

使用教材	
教科書：	
副教材：	

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。	
1 年	「国際 1 」、「Learning in English 1」
2 年	「国際 2 」、「Learning in English 2」
3 年	「国際 3 」、「Pre Immersion」、「Learning in English 3」
4 年	「MYP Personal Project／課題研究」、「Global Issues」、「英語以外の言語」
5 年	「総合的な探究の時間」「Global Issues」「英語以外の言語」
6 年	「総合的な探究の時間」「国際 A」「国際 B」

上記の科目・総合的学習の時間の他に、1・3・5 年のワークキャンプⅠ・Ⅱ（国内）・Ⅲ（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1 年から 3 年では、4 年次において PP を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。さらに、5・6 年の「総合的な探究の時間」では、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。	
---	--

備考

教科名	国際教養	科目名	国際４／５／６（総合的な探究の時間）			単位数
学年	４・５・６年		Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study			1
(後期課程科目のみ)		学校設定科目		必履修科目		○

本科目の目標／伸ばしたい力

〈４年生：Personal Project〉

- ・生徒個人に特化したものを探究する。
- ・何に焦点を当てたいか（既存の興味または新たな興味）、どのように目標を達成するかを選択する。
- ・探究、行動、振り返りのプロセスを通して、ATL スキルを強化する。
- ・成果物に対して自分なりの成功規準を設定する。
- ・本当の意味で個人として創造的な成果物を生み出す。

〈５年生〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。

〈６年生〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こす。

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解しているか。	
思考・判断・表現	現代的な諸課題から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現しているか。	
主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしているか。	

使用教材

教科書：

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

〈国際４〉Personal Project

- ・MYP の学習の集大成として Personal Project に取り組む。
- ・社会にどう役立つのかを考えて課題を設定し、自分の力で調査し、分析し、作品やレポート、プロジェクトという形にする。

〈国際４後半/5/6〉総合的な探究の時間（課題研究）

- ・本校における探究学習の集大成として、２年間(実際には４年生後半から)かけて「課題研究」に取り組む。
- ・自分の問題意識に照らして研究課題を設定し、適切な研究方法で分析・考察を進め、論文にまとめる。

〈国際５〉海外ワークキャンプ

・学習領域「国際教養」の集大成として、海外で異文化に触れ、多様な社会・文化のあり方を知るとともに、自国の文化を再認識する。

- ・海外で多様な文化に生きる人々と現代的な課題について共有し、議論する力を伸ばす。

備考

４年生の「総合的な探究の時間」（前半は Personal Project、後半は課題研究）は、生徒全員が履修します。

教科名	国際教養	科目名	英語以外の言語：フランス語/ドイツ語/スペイン語/中国語/韓国・朝鮮語	単位数
学年	4 年		French, German, Spanish, Chinese, Korean	2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必修科目
				選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

国際教養の科目として、母語としての MYP 言語 A(国語)および付加的言語としての MYP 言語 B(英語)に加えて、MYP の 3つの基本概念のひとつである多文化理解を深めるために、英語以外の言語の初級の言語能力の獲得を目指します。

MYP 評価規準と評価方法

A : Listening	音声教材や動画視聴などを通じて、外国語を聞き取る力を評価します。	
B : Reading	会話文や説明文などを通じて、外国語を読み取る力を評価します。	
C : Speaking	やりとりや発表などを通じて、外国語を話す力を評価します。	
D : Writing	文法の学習や作文などを通じて、外国語を書く力を評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	言語材料（文法、語彙、表現など）に対する理解や、4技能の定着を評価します。	
思考・判断・表現	学習した知識や習得した技能を生かして、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行う力を評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習のおもしろさを実感して粘り強く考え、学習した知識や習得した技能を生かして積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度について評価します。	

使用教材

教科書：

◆フランス語：Flash!（駿河台出版社）◆ドイツ語：Klasse! Neu（白水社）◆スペイン語：ELE Actual A1 (S.M.)
◆中国語：北京の街角で（両風堂）◆韓国・朝鮮語：楽しく学ぶ韓国語（DARAKWON）

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

各言語の基本的な発音、語彙、文法を学び、話す、聞く、読む、書く力を総合的に学びます。また各言語圏の文化の理解を深め、コミュニケーション活動を通して、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

【フランス語】

教科書とプリント教材を使用し、基本から初級レベルの文法を学びながら、日常会話を中心にコミュニケーション活動のためのフランス語習得を目指します。また、フランス語圏の国々の文化への興味・関心の育成を目指します。

【スペイン語】

教科書と講師オリジナルのプリントを使用して、基本から初級レベルの文法を学びながら、すぐに役立つ日常会話も学びます。ここでのスペイン語学習のモットーは「楽しく新しい言語を学ぶ」ことです。映像や音楽を通して、スペイン語圏の文化や暮らしを学ぶことを大切に学習を進めていきます。

【ドイツ語】

ドイツ語の基本から初級レベルの知識、日常表現の習得を目指します。授業ではCDやDVD教材なども使用し、実際にドイツ語を使う場面を想定した練習をしたいと思います。音楽や文学、スポーツなど、ドイツ語圏の文化にも触れる予定です。

【中国語】

教科書とプリント教材を使用し、基本から初級レベルのコミュニケーションのための中国語を勉強しながら、中国及び中国語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。

【韓国・朝鮮語】

教科書とプリント教材を使用し、基本から初級レベルのコミュニケーションのための韓国・朝鮮語を勉強しながら、その

言語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。

備考

この科目は選択です。履修選択のオリエンテーション等を参考に、選択する言語を確定してください。また、5 学年で選択する言語は、4 学年と同じ言語を選択しなければなりません（言語の変更は原則認められません）。

2025/3/25 更新

教科名	国際教養	科目名	Global Issues	単位数
学年	4 年		Global Issues	2
(後期課程科目のみ)		学校設定科目	○	必修科目
				選択必修科目

本科目の目標／伸ばしたい力

知識と概念を理解し、それらを様々な社会的、文化的、歴史的、個人的な文脈において活用できる力と、コミュニケーション能力の育成を目指します。

MYP 評価規準と評価方法

A：知識と理解	授業中の学習活動・まとめ、課題等から、知識に関する理解度および活用の程度を評価します。	
B：調査研究	課題等から、明確なテーマ設定、論点の提示、異なる立場や複数のソースから情報収集がどの程度できたかを評価します。	
C：コミュニケーション	授業中の調査内容の発表、質疑応答等の様子から、学習内容や調査内容を創意工夫して再構成し、論点を整理してわかりやすく表現できたかどうかを評価します。	
D：批判的思考	授業中の学習活動・まとめ、課題等から、資料や社会的事象を分析し、異なる見解を整理した上で、どの程度適切に解釈したり評価したりできたかを評価します。	

文部科学省 学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点（MEXT 評価規準）と評価方法

知識・技能	MYP の規準 A および規準 B に対応します。知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・課題等から評価します。	
思考・判断・表現	MYP の規準 C および規準 D に対応します。社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・課題等から評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。	

使用教材

教科書： トピックに合わせて授業者が教材を準備します。

副教材：

学習内容と年間授業計画 ※カリキュラムマップも併せて参照してください。

以下のようなトピックを、じっくり時間をかけて多角的に取り扱うことを予定しています。

国際政治、国民国家、時事問題

備考

この科目は選択です。授業で使用する言語は英語です。4 学年で＜Global Issues＞を選択した場合、5 学年では＜英語以外の言語＞は選択できません。

2025/3/25 更新